

# 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース 授業科目名 <p style="text-align: center;">解剖学Ⅱ</p>	学年 2	開講区分 前期	担当教員 河田 晋一先生	時間数 (単位) 60 (4)	授業回数 15
[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 医科大学、人体構造学分野で教鞭をとり、死体解剖資格を有する教員が、人体を構成する諸器官や組織の正常な形態・構成・機能などの基礎知識を教授する。					
[到達目標] 解剖学を学ぶことで、柔道整復師となるのに必要な知識を習得する。 血管系や内臓器、神経系などの位置や内景を学び、その構造と機能を理解する。					
[使用教材、参考文献等] 解剖学(医歯薬出版)			[準備学習・時間外学習] 事前に教科書を読み、わからない用語等は調べておくことが望ましい。各部の名称や構造を理解するために、授業後も繰り返し復習することが望ましい。		
回	[授業概要]		到達目標(できるようになること)		
1	上肢・胸部・腹部の動脈		上肢・胸部・腹部の循環器系の構成を理解する。 主要血管の走行を理解する。		
2	骨盤部・下肢の動脈		骨盤部・下肢の循環器系の構成を理解する。 主要血管の走行を理解する。		
3	大静脈・門脈・胎児循環		身体各部の静脈の構成を理解する。 門脈系、下大静脈のとその根の走行を理解する。		
4	リンパ系・リンパ性器官		全身のリンパ管の構成と走行を理解する。		
5	内臓学総論 消化管①		内臓系の種類を知る。 消化器臓器の解剖学的な位置を知る。		
6	消化管②		消化管壁の構造と機能について理解する。		
7	消化管③		消化器系の構成臓器の連続的なつながりを理解する。		
8	消化管④		消化管について復習を行う。		
9	肝臓・膵臓		肝臓・膵臓などの実質臓器の内景を知り、その機能を理解する。		
10	腹膜		腹膜の構造について理解する。		
11	呼吸器		呼吸器系臓器の名称と機能を理解する。呼吸器系の各臓器の位置関係を知り、その連続的なつながりを理解する。		
12	泌尿器		泌尿器系の各臓器の名称と機能を理解する。泌尿器系の各臓器の位置関係を知り、その連続的なつながりを理解する。		
13	確認テスト		知識の確認試験を行う。		
14	復習		確認テストの内容を解説する。		
15	期末試験		テストにより効果測定を行い、習熟度を把握し、理解度を深める。		
[評価について] 評価は筆記試験で行う。 試験は確認テスト(20点)と期末テスト(80点)の合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。			[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。		

## 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員 熊澤 真理子先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 専門分野の教員要件を有し、長年にわたり医療系専門学校の教育に貢献してきた教員が、柔道整復師として必要な人体の生理現象を講義する。柔道整復師は患者に医療行為を行うため、医療行為による効果やどのような現象が体の中で起っているのかを理解する必要がある。</p>									
<p>〔到達目標〕 生命現象を多彩な視点で取り扱う生理学は、解剖学と並び、医学の根幹をなす重要な学問領域である。本講義では、各組織の機能と人体の影響への関連性を理解する。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 生理学(南江堂)					〔準備学習・時間外学習〕				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	体液の生理学: 体液の区分と水バランス, 体液のイオン組成, 体液の恒常性を維持するしくみ			体液の区分、イオン組成、ホメオスタシスを維持する仕組みについて理解する。					
2	神経の基本的機能: 神経細胞の形態 静止膜電位(拡散電位, 平衡電位)			神経の基本的な仕組みと機能について理解する。 静止膜電位の意味と発生の仕組みを理解する。					
3	活動電位, 閾刺激, 全か無の法則, 不応期, イオンチャネル 興奮の伝導(伝導の三原則, 跳躍伝導, 伝導速度)			活動電位の意味と発生の仕組みについて理解する。 興奮伝導の仕組みを理解する。					
4	神経系の機能: 神経系の成り立ち(反射弓, 体性神経系と 自律神経系, 末梢神経系と中枢神経系)			神経の反射弓の構成を理解する。 神経系を機能的に分類し、その働きを理解する。					
5	内臓機能の調節(交感神経系・副交感神経系, 自律神経 遠心性線維の伝達物質・効果器支配・分布と作用)			自律神経と内臓支配の特徴を理解する。					
6	姿勢と運動の調節 高次機能(脳波, 覚醒と睡眠)			姿勢と運動の仕組みについて理解する。 神経細胞の活動状態を脳波の波形から理解する。					
7	神経の基本的機能の復習			現在までの復習を行う。					
8	神経系の機能: 高次機能			認知、言語、意思などと連合野の関係及び働きが説明できる。					
9	筋肉の機能: 筋肉の種類と特徴, 骨格筋の構造 筋収縮のしくみ, 筋細胞膜を興奮させるしくみ			骨格筋の構造を理解する。 筋収縮のしくみについて理解する。					
10	筋収縮のエネルギー, 筋の熱発生, 筋電図 平滑筋, 心筋			筋収縮のエネルギーとしてのATP供給の仕組みを理解する。 平滑筋、心筋の特徴を理解する。					
11	感覚の生理学: 感覚の種類, 感覚の一般的性質, 体性感 覚			感覚の種類を理解する。 痛覚、触圧覚、温冷覚の特徴を理解する。					
12	内臓感覚, 嗅覚, 味覚			内臓感覚の特徴を理解する。 嗅覚、味覚の伝導について理解する。					
13	聴覚, 視覚(眼の構造, 結像の機序, 光受容機序)			聴覚の伝導について理解する。 視覚情報の受容について理解する。					
14	確認テスト			今までの復習テストを行う					
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 試験は確認テスト(20点)と期末テスト(80点)の合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。				

# 2020年度 シラバス (2020\_03\_26)

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース		学年 2	開講区分 前期	担当教員 加藤 達郎		
授業科目名 運動学		必修/選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(2)	授業回数 15	
<p>〔授業の学習内容と心構え〕          長年にわたり、大学でスポーツバイオメカニクス、運動学、スポーツ科学等の教育に力をいれ、学会での論文発表の経験のある教員が身体運動に関わる力学・生理学・解剖学、6大関節を動かす筋の起始・停止・作用を内容について講義を行う。</p>						
<p>〔到達目標〕          ・身体運動を分析する基本的観点及び専門用語を理解する。          ・運動学の定義と領域を学ぶと共に、国家試験の高頻出領域を理解する。</p>						
〔使用教材、参考文献等〕 ・教科書は運動学（医歯薬出版、改訂第3版第10刷）。 ・必要に応じ、配付プリントによる授業を行ないます。 ・学習には次の文具を用いることがある。色ペン、修正用具、三角定規、コンパス、分度器、√付き電卓、など。				〔準備学習・時間外学習〕 勉強の方法は、『予習→受講→復習』以外にはありません。授業まえに教科書を読み、授業後にもう一度読むこと。予習には下表のページ表記を参考に。		
回	〔授業概要〕		〔到達目標〕			
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>シラバスの確認</li> <li>運動学の土台となっている学問を知る</li> </ul>		運動学の土台と、自分が知っている知識とを照合して、本格的な学習への準備をする。教科書の目次を参照。			
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>この教科書（柔道整復師養成のための運動学）の特徴を理解する。</li> <li>国試における運動学の位置付けを知る。</li> </ul>		教科書の目次から、この教書の特徴を推察する。さらに、国試における出題数から、運動学の位置付けを知る。Moodleの課題参照。			
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体運動に関する力、単一機械構造</li> </ul>		ベクトル、てこ、力のモーメント、運動の法則、質量、重量、力、骨の構造・機能を学びます。p009～031			
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の法則、骨・関節の構造と機能</li> <li>筋の構造と機能</li> </ul>		骨の構造・機能、及び筋収縮、運動単位の機能を学びます。p032～040			
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>神経の構造と機能、運動感覚</li> </ul>		神経細胞、中枢神経、筋紡錘の機能を学びます。p041～056			
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>反射と随意運動</li> </ul>		反射の種類、随意運動のメカニズムを学びます。p057～068			
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>復習</li> </ul>		第3回から第7回までの内容を復習します。			
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認試験（70分）および解説</li> </ul>		第3回から第7回までの内容を試験します。			
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>肩甲骨の運動</li> <li>肩関節の筋（起始・停止・作用）</li> </ul>		肩関節を動かす主な筋について、塗り絵を描けるようにします。p73、p82			
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>肘関節と手関節の筋（起始・停止・作用）</li> </ul>		肘関節と手関節を動かす主な筋について、塗り絵を描けるようにします。p91、p105			
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>股関節の筋（起始・停止・作用）</li> </ul>		股関節を動かす主な筋について、塗り絵を描けるようにします。P121			
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>膝関節と足関節の筋（起始・停止・作用）</li> </ul>		膝関節と足関節を動かす主な筋について、塗り絵を描けるようにします。P128、p138			
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>6大関節の復習</li> </ul>		6大関節の塗り絵をかけるようにします。			
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>復習</li> </ul>		第3回から第7回までの主な内容と、第8回から第13回までの詳細を復習します。			
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>期末試験（70分）および解説</li> </ul>		第3回から第7回までの主な内容と、第8回から第13回までの詳細を試験します。			
〔評価について〕 ・試験は筆記試験で行ないます。 ・評価は、確認試験(40%)と期末試験(60%)の合計100%で行ないます。			〔特記事項〕 ・授業では、学問として大切である箇所と、国家試験に高頻出である箇所を指摘します。 ・過去の国家試験の問題は、全て教科書から出題されています。従って教科書に沿って学ぶことが大切です。			

## 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科		学年	2	開講区分	前期	担当教員			村松 淳
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>歯科医師免許取得後、胸腺細胞、口腔細菌などの研究を行う。また臨床、産業保健活動にも従事し、産業保健分野の書籍では、職業性疾病に関する章の分担執筆を担当した。教育分野では、医療系大学・専門学校での講師経験も有する。講義では病理学の基本的な内容に加え、最新の知見も交えて、解説して行く予定である。</p>									
<p>[到達目標]</p> <p>柔道整復師の業務を行う上で必要な病理学の基礎知識を習得する。</p>									
[使用教材、参考文献等]					[準備学習・時間外学習]				
関根一 郎著 病理学概論 改訂第3版 医歯薬出版					普段より、ニュース、健康番組などで身近に病気に興味を持って下さい。また、授業後は講義の際、課題とした部分を復習して下さい。				
回	[授業概要]				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション、病理学とは				病理学の意義、病理解剖などの研究対象、観察方法などについて理解する。				
2	疾病の一般、細胞増殖・細胞死				疾病・症候の意義・分類、疾病の経過、予後、転帰、細胞増殖・細胞死などについて理解する。				
3	病因1(病因論、内因1)				素因と体質、遺伝・内分泌・免疫について理解する。				
4	病因2(内因2、外因1)				内分泌疾患(糖尿病など)、ストレス、栄養障害、物理的外因(機械的損傷、温度)について理解する。				
5	病因3(外因2)				物理的外因(放射線、光線、電気、気圧)、化学的外因について理解する。				
6	病因4(外因3)、細胞傷害1				生物学的外因、細胞傷害の概要、退行性病変の分類(萎縮、変性、壊死)について理解する。				
7	細胞傷害2				萎縮、変性について理解する。				
8	確認試験				試験を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	細胞傷害3				代謝障害と疾病(糖尿病合併症等)、老化、壊死、細胞死(アポトーシス等)、死・死後変化について理解する。				
10	循環障害1(血液の循環障害1)				充血、うっ血、虚血、出血について理解する。				
11	循環障害2(血液の循環障害2)				血栓症、塞栓症、梗塞について理解する。				
12	循環障害3(リンパ液の循環障害など)				浮腫、脱水症、高血圧症(分類など)について理解する。				
13	進行性病変1				肥大、再生、化生、創傷治癒(肉芽組織など)について理解する。				
14	進行性病変2				創傷治癒(骨折の治癒、異物処理)、移植、再生医学について理解する。				
15	期末試験				試験を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
[評価について]					[特記事項]				
評価は筆記試験で実施。筆記試験は確認試験(40点)と期末試験(60点)の合計100点で評価予定。評価は学則規定に準ずる。					講義はプリントを配布して行う予定です。講義において重要事項を理解するため、下線を引いたり、メモをとるようにして下さい。講義はなるべく欠席したり、遅刻したりしないように心掛けて下さい。				

# 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース 授業科目名  一般臨床医学	学年  2	開講区分  前期	担当教員 浅谷 健介先生	時間数(単位) 2	授業回数 15
[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師にとって必要な内科を中心とした診察法や疾患について、病態生理から理解するよう授業を行う。					
[到達目標] 総論、各論共に理解、定着を目標とする。					
[使用教材、参考文献等] 一般臨床医学(改訂第3版)			[準備学習・時間外学習] 授業後の復習が望ましい。		
回	[授業概要]		到達目標(できるようになること)		
1	一般臨床医学の概略		一般臨床医学の概略が説明できる。		
2	問診		問診の意義を説明できる。		
3	視診		視診の意義を説明できる。		
4	打診		打診の意義を説明できる。		
5	聴診		聴診の意義を説明できる。		
6	触診		触診の意義を説明できる。		
7	生命徴候		生命徴候、体温、血圧などについて説明できる。		
8	確認テスト		試験において定着度を確認する。		
9	感覚検査		感覚検査の意義を説明できる。		
10	反射検査		反射検査の意義を説明できる。		
11	反射検査		反射検査の意義を説明できる。		
12	生理機能検査、検体検査		各検査の意義を説明できる。		
13	呼吸器疾患		呼吸器疾患の概念を説明できる。		
14	呼吸器疾患		呼吸器疾患の各論を説明できる。		
15	期末試験		試験において定着度を確認する。		
[評価について] 評価は筆記試験で行う。 試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。			[特記事項] 特にない。		

## 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科午後コース	学年	2	開講区分	前期	担当教員			鈴木 眞理先生
授業科目名	外科学概論	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	2	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)          長年各学校で教員を務めた経験がある、鍼灸師と盲学校特殊教科教諭1種免許を有した教員が講義形式で授業を行う</p>									
<p>〔到達目標〕          柔道整復師に必要な診察法の概論および各論部分を学び、代表的な臨床症状を理解する。各種検査法について概要を知り、検査の基準値について理解をする。主要な疾患について学び理解する。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 外科学概論					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)						
1	損傷		損傷を分類する意義を理解する 外傷の重症度及びバイタルサインの判定基準が説明できる						
2	創傷		創傷の処置、治癒、治癒を遅延させる因子を理解する						
3	熱傷		熱傷の原因・診断・治療・合併症を説明できる						
4	ショック		ショックの定義や分類を理解し、症状や初期処置、治療について説明ができる						
5	輸血		血液学の基礎及び交差適合試験の概略が説明できる 輸血の種類や副作用を説明できる						
6	輸液		輸液の定義、目的、適応について理解する 輸液の注意、副作用、合併症が説明できる						
7	消毒・滅菌		消毒・滅菌について理解する。						
8	確認テスト		復習を行い、知識を定着させる。						
9	炎症		炎症の定義、分類について理解する 感染発症のメカニズムについて説明できる						
10	腫瘍(1)		腫瘍の概念を理解する 腫瘍の成因及び悪性・良性腫瘍の概略が説明できる						
11	腫瘍(2)		癌及び肉腫の差異が説明できる 主な悪性腫瘍の特徴・症状が説明できる 腫瘍の治療成績についての概略を理解する						
12	手術		各種手術法の意義を理解し、各種手術法を説明できる 滅菌と消毒の意義を理解し、主な消毒法を挙げ概要が説明できる						
13	麻酔		各種麻酔法を知り、全身及び局所麻酔の違いと用途が説明できる						
14	移植と免疫		移植の種類、移植の現状を理解する 腎臓、肝臓、心臓移植の概要が説明できる						
15	期末テスト 解説		テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

## 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	佐藤 卓弥先生		
整形外科学						時間数(単位)	30(2)	授業回数
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 専門分野の教員要件を有し、長年にわたり医療系専門学校の教育に貢献してきた教員が、臨床において高頻度に遭遇する整形外科疾患の概要を教授する。単に臨床上の基礎知識にとどまらず、幅広く疾患を俯瞰でき得よう、医学知識を習得する。</p>								
<p>〔到達目標〕 整形外科の基礎となる解剖・生理・運動学的知識を確認し、整形外科で用いられる診察・治療手段、各整形外科疾患の概要、疫学、症状、診断、治療について理解する。</p>								
〔使用教材、参考文献等〕 整形外科学				〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)						
1	整形外科の意義と内容	整形外科の意義と内容を理解できる						
2	運動器の基礎知識(骨の基礎知識)	既に学習した運動器について図示、説明できる						
3	運動器の基礎知識(関節の基礎知識)	既に学習した運動器について図示、説明できる						
4	運動器の基礎知識(筋・靭帯・腱の基礎知識)	既に学習した運動器について図示、説明できる						
5	整形外科診察法	整形外科特有の検査法、画像診断の概要を知り、簡単な検査を実践できる。						
6	整形外科検査法	整形外科特有の検査法、画像診断の概要を知り、簡単な検査を実践できる。						
7	整形外科的治療法	整形外科特有の検査法、画像診断の概要を知り、簡単な検査を実践できる。						
8	骨・関節損傷総論	骨折、捻挫、脱臼について説明できる						
9	スポーツ整形外科総論	スポーツ障害について理解し、主な疾患を説明できる						
10	リハビリテーション総論	変形(拘縮)、術後、上肢、スポーツのリハビリテーションについて理解し説明ができる						
11	疾患別各論(感染性疾患)	整形外科領域の感染性疾患について主な疾患が挙げられ、その主な症状について説明ができる						
12	疾患別各論(骨および軟部腫瘍)	整形外科領域の骨・軟部腫瘍領域について主な疾患を挙げられ、その主な症状について説明できる						
13	疾患別各論(非感染性軟部・骨関節疾患)	整形外科領域の非感染性疾患について主な疾患が挙げられ、その主な症状について説明ができる						
14	確認テスト	今までの確認試験を実施する。						
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 試験は確認テスト(20点)と期末テスト(80点)の合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

## 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						吉岡 博英先生			
	リハビリテーション医学	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) リハビリテーション医学の総論部分及び、リハビリテーションの基礎医学、評価と診断を教授する。									
〔到達目標〕 リハビリテーション医学の総論部分を学ぶ。リハビリテーションの基礎医学、評価と診断を理解する。リハビリテーション医学の各種療法について学習し、理解する。									
〔使用教材、参考文献等〕 リハビリテーション医学(改訂第4版)					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	リハビリテーションの概念と歴史	リハビリテーションの定義と概念及び主要目的を示せる。リハビリテーションの歴史を示せる。							
2	リハビリテーション医学	医学的リハビリテーションとリハビリテーション医学の関係を説明できる。							
3	運動学と機能解剖(関節の運動、上肢の運動)	関節運動・筋の作用の概要が説明できる。上肢にある関節の運動と機能解剖が説明できる。							
4	下肢・脊柱の運動と機能解剖	脊柱の運動と機能解剖が説明できる。下肢にある関節の運動と機能解剖が説明できる。							
5	障害学	関節の変形を原因別に分類できる。関節拘縮の発生機序について概要が説明できる。							
6	治療学	運動障害をきたす原因部位を分類、関連器官と評価手段の種類を挙げ概略を説明できる。治療アプローチの原則を障害レベル別に説明できる。							
7	リハビリテーション医学の評価と診断(患者のとらえ方)	障害モデルにおける評価の意義を説明できる。評価の目的を説明しゴール設定で評価の持つ意義を説明できる。							
8	確認テスト	復習を行い、知識を定着させる							
9	リハビリテーション医学の評価と診断(高次脳機能の局在)	中枢性運動障害の評価法の概略が説明できる。							
10	リハビリテーション医学の評価と診断(画像診断)	電気生理学的検査、画像診断の概略が説明できる。							
11	リハビリテーションの治療(理学療法)	理学療法の定義・適応・実施過程の概略が説明できる。運動療法の種類・期待される効果について説明できる。							
12	リハビリテーションの治療(作業療法)	作業療法の概要と種類を示し説明できる。装具の分類・使用目的・適応について説明できる。							
13	リハビリテーションの治療(補装具)	装具の分類・使用目的適応について説明できる。義肢・歩行補助具の分類、使用目的について説明ができる。							
14	リハビリテーションの治療(補装具)	装具の分類・使用目的適応について説明できる。義肢・歩行補助具の分類、使用目的について説明ができる。							
15	期末テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。				



# 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員			瑞泉 誠先生
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
臨床柔道整復学 I									
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)            柔道整復師の資格を持ち、接骨院の臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、柔道整復術の骨折・脱臼・軟部組織損傷の知識および治療法を、人体構造の基礎である筋骨格系をベースに授業を行なう。作図と3D映像を交え、立体的に把握できるような空間認識能力を培い、実際の人体内部を理解できる授業とする。臨床での経験を活かし、実際の治療法に関する内容まで到達することを目標とする。</p>									
<p>〔到達目標〕            前腕部の骨折・脱臼・軟部組織損傷についての基本的知識を説明できるようになる。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学 理論編 改訂第6版 南江堂					〔準備学習・時間外学習〕				
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	前腕部の機能解剖	前腕部の機能解剖について理解する。							
2	前腕部骨幹部骨折1	橈骨骨幹部骨折について理解する。							
3	前腕部骨幹部骨折2	ガレアッジ骨折、尺骨骨幹部骨折について理解する。							
4	前腕部骨幹部骨折3	モンテギア骨折、橈・尺両骨骨幹部骨折について理解する。							
5	前腕部の軟部組織損傷1	コンパートメント症候群、腱交叉症候群について理解する。							
6	前腕部の軟部組織損傷2	末梢神経障害について理解する。							
7	手関節部の機能解剖	手関節部の機能解剖について理解する。							
8	確認テスト	知識の確認を行う。							
9	前腕遠位端部の骨折2	スミス骨折、 Barton骨折、ショーファー骨折、骨端線離開について理解する。							
10	手根骨の骨折1	舟状骨骨折について理解する。							
11	手根骨の骨折2	三角骨、有鉤骨、豆状骨の骨折について理解する。							
12	遠位橈尺関節脱臼	遠位橈尺関節脱臼について理解する。							
13	橈骨手根関節脱臼	橈骨手根関節について理解する。							
14	舟状骨脱臼、周囲脱臼	舟状骨脱臼、周囲脱臼について理解する。							
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。							
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。				

## 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	集中講座		
臨床柔道整復学Ⅱ				時間数(単位)	30(2)	授業回数	15	
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)          接骨院にて怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、柔道整復師として必要な軟部組織損傷についての知識を教授する。          解剖学的な構造を理解したうえで発生機序を理解する。ただ単に症状や治療法を暗記するのではなく、なぜそのような症状がでるのか、なぜそのように治療するのかを解剖学や運動学といった学問を基に論理的に考えさせ、臨床の現場でも対応できるような知識の習得を目指した授業とする。</p>								
<p>[到達目標]          肘関節の骨折・脱臼・軟部組織損傷についての基本的知識を説明できるようになる。</p>								
[使用教材、参考文献等] 柔道整復学 理論編 改訂第6版 南江堂				[準備学習・時間外学習]				
回	[授業概要]			到達目標(できるようになること)				
1	肘関節の機能解剖			肘関節の機能解剖について理解する。				
2	上腕骨顆上骨折1			顆上骨折の発生機序、症状について理解する。				
3	上腕骨顆上骨折2			顆上骨折の後遺症と予後について理解する。				
4	上腕骨外顆骨折			上腕骨外顆骨折について理解する。				
5	上腕骨内側上顆骨折			上腕骨内側上顆骨折について理解する。				
6	橈骨近位部骨折			橈骨近位部骨折について理解する。				
7	肘頭骨折			肘頭骨折について理解する。				
8	肘関節脱臼1			両骨脱臼について理解する。				
9	肘関節脱臼2			橈骨単独脱臼について理解する。				
10	肘関節脱臼3			肘内障について理解する。				
11	肘関節部の軟部組織損傷1			靭帯損傷について理解する。				
12	肘関節部の軟部組織損傷2			野球肘について理解する。				
13	肘関節部の軟部組織損傷3			テニス肘、その他の疾患について理解する。				
14	復習			復習を行う。				
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。				
[評価について] 評価は筆記試験で行う。 試験は単位認定試験(100点)で評価する。評価は学則規定に準ずる。				[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。				

## 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	集中講座		
臨床柔道整復学Ⅲ				時間数(単位)	30(2)	授業回数	15	
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、柔道整復師として必要な骨盤から下肢の骨折についての知識を教授する。解剖学的な構造を理解したうえで発生機序を理解する。ただ単に症状や治療法を暗記するのではなく、なぜそのような症状がでるのか、なぜそのように治療するのかを解剖学や運動学といった学問を基に論理的に考えさせ、臨床の現場でも対応できるような知識の習得を目指した授業とする。</p>								
<p>〔到達目標〕</p> <p>頸椎と大腿部・膝関節周辺の骨折・脱臼・軟部組織損傷についての基本的知識を説明できるようになる。</p>								
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学 理論編 改訂第6版 南江堂				〔準備学習・時間外学習〕				
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)						
1	頸椎の機能解剖	頸椎の機能解剖について理解する。						
2	頸椎の骨折脱臼	頸椎の骨折、脱臼について理解する。						
3	頸椎の軟部組織損傷1	むちうち損傷、胸郭出口症候群について理解する。						
4	頸椎の軟部組織損傷2	寝違え、斜頸、頸椎ヘルニアなどについて理解する。						
5	頸椎の軟部組織損傷3	外傷性腕神経叢麻痺などについて理解する。						
6	膝関節の機能解剖	膝関節の機能解剖について理解する。						
7	大腿骨遠位端部骨折	顆部骨折について理解する。						
8	下腿骨近位端部骨折	下腿骨近位端部の骨折について理解する。						
9	膝関節脱臼	膝関節脱臼について理解する。						
10	膝関節骨折・脱臼	膝関節骨折と脱臼について理解する。						
11	膝関節の軟部組織損傷1	半月板・靭帯損傷について理解する。						
12	膝関節の軟部組織損傷2	発育期の膝関節障害、腸脛靭帯炎、鷲足炎について理解する。						
13	膝関節の軟部組織損傷3	膝蓋大腿関節障害、膝周囲の関節包、滑液包について理解する。						
14	膝関節の軟部組織損傷4	神経の障害について理解する。						
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。						
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 試験は単位認定試験100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。				

## 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名				授業形態	実技	時間数(単位)	30 (1)	授業回数	15
柔道整復実技Ⅲ		必修/選択	必修						
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、各代表的な骨折・脱臼・軟部組織損傷の基礎知識と整復・固定の技術を指導する。骨折・脱臼の整復・固定は柔道整復師として絶対的に必要な技術であり、他業種に負けない独自の技術である。そのため、自主練習に励み、1年間のうちにその基礎を培って欲しい。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>柔道整復師として必要な上肢の骨折・脱臼に対する整復法と固定法を習得することを目標とする。 3年次に行われる認定実技審査の内容を細かく学び、技術の習得をする。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
柔道整復学 実技編 柔道整復学 理論編 包帯固定学									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	授業オリエンテーション 認定実技審査について				<ul style="list-style-type: none"> <li>この授業の到達目標を確認する。</li> <li>認定実技審査の概要について理解する。</li> </ul>				
2	大腿四頭筋打撲・ハムストリングス損傷・下腿三頭筋損傷の診察				全身および患部の診察を適切に進めることができる				
3	肩腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷・肘内障の診察				全身および患部の診察を適切に進めることができる				
4	肘関節後方脱臼の診察および整復法				全身および患部の診察を適切に進めることができる 整復の手順を適切にできる				
5	コーレス骨折の診察および整復法①				全身および患部の診察を適切に進めることができる 整復の手順を適切にできる				
6	アキレス腱断裂の診察				全身および患部の診察を適切に進めることができる				
7	膝関節靭帯損傷・半月板損傷の診察				全身および患部の診察を適切に進めることができる				
8	肘関節後方脱臼の固定法				適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる				
9	コーレス骨折の固定法①				適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる				
10	コーレス骨折の固定法②				適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる				
11	コーレス骨折の固定法③				適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる				
12	復習①				これまでの学習の振り返りを行うことで、より確実な知識・技術を習得する。				
13	復習② 確認テスト				これまでの学習の振り返りを行うことで、より確実な知識・技術を習得する。				
14	期末テスト①				テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める				
15	期末テスト②				テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める				
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 実技試験は確認テスト(20点)と期末テスト(80点)の合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい手法があれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。				

# 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

<b>学科・コース</b> 柔道整復師科午後コース	<b>学年</b>	2	<b>開講区分</b>	後期	<b>担当教員</b> 河田 晋一先生	
<b>授業科目名</b>  解剖学Ⅱ	<b>必修/選択</b>	必修	<b>授業形態</b>	講義	<b>時間数(単位)</b>	60 (4) 授業回数 15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)                  医科大学、人体構造学分野で教鞭をとり、死体解剖資格を有する教員が、人体を構成する諸器官や組織の正常な形態・構成・機能などの基礎知識を教授する。</p>						
<p>〔到達目標〕                  人体の構造の基本である解剖学を学ぶことで、柔道整復師となるのに必要な知識を習得する。                  血管系や内臓器、神経系などの位置や内景を学び、その構造と機能を理解する。</p>						
〔使用教材、参考文献等〕 解剖学			〔準備学習・時間外学習〕 事前に教科書を読み、わからない用語等は調べておくことが望ましい。各部の名称や構造を理解するために、授業後も繰り返し復習することが望ましい。			
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)			
1	女性生殖器 卵巣、卵管、子宮、膣		女性生殖器の各臓器の位置、形態、機能を理解する。			
2	内分泌① 内分泌器の働き、下垂体、甲状腺、上皮小体		内分泌系の構成臓器の位置を理解する。			
3	内分泌② 副腎、膵臓、精巣、卵巣		内分泌系臓器の構造と機能を理解する。			
4	脳の区分		中枢神経の外観と区分について理解する。			
5	大脳 大脳皮質、大脳白質、大脳基底核		大脳の外形と機能局在について理解する。			
6	中脳・橋・延髄 脳神経核、網様体、伝導路の中継核		脳幹の部位と区分、内部構造について理解する。			
7	脊髄 ベル・マジャンディーの法則		脊髄の構造および脊髄神経の構造と機能を理解する。			
8	伝導路① 反射路、上行性伝導路		末梢からの感覚を伝える伝導路の名称と構造を理解する。			
9	伝導路② 下行性伝導路		末梢からの感覚を伝える伝導路の名称と構造を理解する。			
10	脳神経①		脳から出る脳神経の位置や構造について理解する。			
11	脳神経②		各脳神経の機能について理解する。			
12	自律神経、感覚器 交感神経系、副交感神経系		交感神経および副交感神経の構造と機能について理解する。各感覚器の受容器と伝導路を含めた構造を理解する。			
13	確認テスト		知識の確認試験を行う。			
14	復習		確認テストの内容を解説する。			
15	期末試験 解説		テストにより効果測定を行い、習熟度を把握し、理解度を深める。			
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 試験は確認テスト(20点)と期末テスト(80点)の合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕			

# 2020年度 シラバス (2020\_03\_26)

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース	学年	2	開講区分	後期	担当教員	
授業科目名					加藤 達郎	
運動学	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30 (2)
					授業回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え]</p> <p>長年にわたり、大学でスポーツバイオメカニクス、運動学、スポーツ科学等の教育に力をいれ、学会での論文発表の経験のある教員が上肢・下肢の運動の詳細、立位姿勢と歩行、および運動の発達・学習を内容とします。その際、国家試験の高頻出の箇所を指摘します。</p>						
<p>[到達目標]</p> <p>上肢・下肢の運動の詳細を理解する。 立位姿勢と歩行、および運動の発達・学習を理解する。 国家試験の高頻出の箇所を理解する。</p>						
[使用教材、参考文献等] 前期と同じです。			[準備学習・時間外学習] 前期と同じです。			
回	[授業概要]			[到達目標]		
1	・ 上肢の運動の詳細-1			回旋筋腱板、肩甲上腕リズム、習慣的機能の転倒、共同筋作用などを学びます。p69～		
2	・ 上肢の運動の詳細-2			回旋筋腱板、肩甲上腕リズム、習慣的機能の転倒、共同筋作用などを学びます。p～113		
3	・ 下肢の運動の詳細			転がり運動、滑り運動、ヒザ関節伸展機構、アーチなどを学びます。p114～145		
4	・ 体幹、脊柱の運動の詳細			脊柱の運動、頸部の運動、胸郭の運動、腰椎の運動を学びます。p146～176		
5	・ 姿勢、重心、立位姿勢			人体の重心を求める。立位姿勢の重心線、安定性を学びます。p177～183		
6	・ 立位姿勢の制御、機能肢位、歩行			抗重力筋、立位保持の神経機構、を学びます。p184～192		
7	・ 復習			第1回から第6回までの内容を復習します。		
8	・ 確認試験(70分)および解説			第1回から第6回までの内容を試験します。		
9	・ 歩行の運動学的分析			歩行における歩行周期、重心移動・関節運動を学びます。p193～199		
10	・ 歩行の運動力学的分析			歩行における筋活動・床反力・足底圧、並びに走行を学びます。p200～206		
11	・ 異常歩行、運動発達			異常歩行の呼称を知る。乳幼児期の運動発達を学びます。p207～223		
12	・ 運動学習			運動学習と行動の遂行の関係を学びます。p225～230		
13	・ 運動・動作・行為の視点を理解する。			身体運動の全体を俯瞰します。		
14	・ 復習			第1回から第6回までの主要内容と、第8回から第13回までの詳細を復習します。		
15	・ 期末試験(70分)および解説			第1回から第6回までの主要内容と、第8回から第13回までの詳細を試験します。		
[評価について]			[特記事項]			
<p>・ 試験は筆記試験で行いません。</p> <p>・ 評価は、確認試験(40%)と期末試験(60%)の合計100%で行います。</p>			<p>・ 授業では、学問として大切である箇所と、国家試験に高頻出である箇所を指摘します。</p> <p>・ 過去の国家試験の問題は、全て教科書から出題されています。従って教科書に沿って学ぶことが大切です。</p>			

## 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科午後コース	学年	2	開講区分	後期	担当教員		佐藤 卓弥先生	
授業科目名	高齢者・競技者の生理的特徴	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>専門分野の教員要件を有し、長年にわたり医療系専門学校の教育に貢献してきた教員が、柔道整復師として必要な人体の生理現象を講義する。柔道整復師は患者に医療行為を行うため、医療行為による効果やどのような現象が高齢者やスポーツ競技者の身体の中で起っているのかを理解する必要がある。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>高齢者の生理学的特徴と変化を学び、高齢者特有の疾患や障害について理解する。          身体発達と運動に対する影響を理解する。          競技者の生理的特徴について学び、トレーニングによる適応や神経機構の特性について理解する。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 生理学(南江堂)					〔準備学習・時間外学習〕				
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	細胞、組織の加齢現象 細胞及び細胞内小器官の変化、体内水分量の変化	加齢によりおこる生理学的な細胞・組織の変化について理解する。							
2	高齢者の生理的特徴 神経系、運動器系、感覚器系の変化	加齢によりおこる神経系、運動器系、感覚器系の変化について理解する。							
3	高齢者の生理的特徴 循環器、呼吸器、消化器、皮膚の変化	加齢によりおこる循環器、呼吸器、消化器、皮膚の変化について理解する。							
4	高齢期特有の疾患・障害 身体的フレイル、認知症、パーキンソン病	加齢に伴う生理学的変化を学びそれにより引き起こされる疾患・障害を理解する。							
5	高齢期特有の疾患・障害 骨粗鬆症、転倒、睡眠障害	加齢に伴う生理学的変化を学びそれにより引き起こされる疾患・障害を理解する。							
6	運動と加齢 歩行の加齢変化、歩行機能低下の影響	高齢者にみられる歩行変化について理解する。							
7	運動と加齢 平衡機能の加齢と変化、反応時間	高齢者にみられる平衡機能の変化や反応時間の変化について理解する。							
8	確認テスト	今までの確認試験を行う。							
9	運動と身体発達 小児期から青年期への発育特性	スキヤモンの発育曲線からリンパ型、神経型、一般型、生殖型の発育について理解する。							
10	運動と身体発達 小児期から青年期の骨・筋肉系の発育と運動	身体発達に伴う骨・筋肉系の変化と運動に対する影響を理解する。							
11	運動と身体発達 小児期から青年期の呼吸循環器系機能と運動	身体発達に伴う呼吸循環系の変化と運動に対する影響を理解する。							
12	発育期の運動不足・過運動の影響 運動の習熟	発育期の運動不足やオーバートレーニングが与える身体への影響を理解する。							
13	スポーツおよびトレーニングによる適応(筋・心肺機能) 競技者の神経機構の特性	競技による身体の適応の違いを理解する。 競技者の神経機構の特性を理解する。							
14	姿勢調節 眼球運動と姿勢制御	姿勢調節や眼球運動が競技に与える影響を学び、その発達について理解する。							
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。							
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。				

## 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午後コース	学年	2	開講区分	後期	担当教員	村松 淳		
授業科目名	病理学概論	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30 (1)	授業回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>歯科医師免許取得後、胸腺細胞、口腔細菌などの研究を行う。また臨床、産業保健活動にも従事し、産業保健分野の書籍では、職業性疾病に関する章の分担執筆を担当した。教育分野では、医療系大学・専門学校での講師経験も有する。講義では病理学の基本的な内容に加え、最新の知見も交えて、解説して行く予定である。□</p>									
<p>[到達目標]</p> <p>柔道整復師の業務を行う上で必要な病理学の基礎知識を習得する。</p>									
<p>[使用教材、参考文献等]</p> <p>関根一郎著 病理学概論 改訂第3版 医歯薬出版</p>					<p>[準備学習・時間外学習]</p> <p>普段より、ニュース、健康番組などで身近に病気に興味を持って下さい。また、授業後は講義の際、課題とした部分を復習して下さい。□</p>				
回	[授業概要]		到達目標(できるようになること)						
1	炎症1		炎症の定義について理解する。炎症の臨床的五大徴候を説明できる。炎症の原因について理解する。						
2	炎症2		炎症の形態学的変化、炎症の経過による分類について理解する。						
3	炎症3		炎症の形態による分類(滲出性炎、増殖性炎、特異性炎)について理解する。						
4	炎症4、免疫1		特異性炎の詳細、免疫の概念について理解する。						
5	免疫2		免疫に関する用語、免疫担当細胞について理解する。						
6	免疫3		免疫不全、自己免疫疾患について理解する。						
7	免疫4、腫瘍1		アレルギーの概念・分類、死因別疾患順位について理解する。						
8	確認テスト		試験を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
9	腫瘍2		腫瘍の定義、分類、形態、発育、腫瘍細胞の形態、腫瘍マーカー、がん抑制遺伝子などについて理解する。						
10	腫瘍3		腫瘍の発生機構、前癌病変、転移、生体への影響について理解する。						
11	腫瘍4		癌の外因・内因について理解する。腫瘍の診断・治療について説明できる。						
12	腫瘍5		腫瘍の分類、主な良性腫瘍、悪性腫瘍、主要臓器のがんについて理解する。						
13	染色体・遺伝子および発生の異常1		遺伝子・染色体、単因子性遺伝(遺伝子病)・多因子性遺伝の疾患、染色体異常について理解する。						
14	染色体・遺伝子および発生の異常2		奇形の原因、奇形成立の時期、奇形の種類について理解する。						
15	期末試験		試験を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
<p>[評価について]</p> <p>評価は筆記試験で実施。 筆記試験は確認試験(40点)と期末試験(60点)の合計100点で評価予定。評価は学則規定に準ずる。</p>					<p>[特記事項]</p> <p>講義はプリントを配布して行う予定です。講義において重要事項を理解するため、下線を引いたり、メモをとるようにして下さい。講義はなるべく欠席したり、遅刻したりしないように心掛けて下さい。</p>				



## 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科午後コース		学年	2	開講区分	後期	担当教員		浅谷 健介先生	
授業科目名		一般臨床医学		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師にとって必要な内科を中心とした疾患について、病態生理から理解するよう授業を行う。</p>											
<p>[到達目標] 総論、各論共に理解、定着を目標とする。</p>											
<p>[使用教材、参考文献等] 一般臨床医学(改訂第3版)</p>						<p>[準備学習・時間外学習] 授業後の復習が望ましい。</p>					
回	[授業概要]					到達目標(できるようになること)					
1	循環器疾患					循環器疾患について説明できる。					
2	循環器疾患					循環器疾患について説明できる。					
3	消化器疾患					消化器疾患について説明できる。					
4	消化器疾患					消化器疾患について説明できる。					
5	代謝栄養疾患					代謝栄養疾患について説明できる。					
6	内分泌疾患					内分泌疾患について説明できる。					
7	血液、造血器疾患					血液、造血器疾患について説明できる。					
8	確認テスト					試験において定着度を確認する。					
9	血液、造血器疾患					血液、造血器疾患について説明できる。					
10	泌尿器疾患					泌尿器疾患について説明できる。					
11	神経疾患					神経疾患について説明できる。					
12	感染症					感染症について説明できる。					
13	膠原病					膠原病について説明できる。					
14	アレルギー疾患					アレルギー疾患について説明できる。					
15	期末試験					試験において定着度を確認する。					
<p>[評価について] 評価は筆記試験で行う。 試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>						<p>[特記事項] 特にない。</p>					

## 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科午後コース	学年	2	開講区分	後期	担当教員		鈴木 眞理先生	
授業科目名	外科学概論	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30 (2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 長年各学校で教員を務めた経験がある、鍼灸師と盲学校特殊教科教諭1種免許を有した教員が講義形式で授業を行う									
〔到達目標〕 柔道整復師に必要な診察法の概論および各論部分を学び、代表的な臨床症状を理解する。各種検査法について概要を知り、検査の基準値について理解をする。主要な疾患について学び理解する。									
〔使用教材、参考文献等〕 外科学概論					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)						
1	出血と止血		出血と止血について理解する。						
2	心肺蘇生法		蘇生法の概略を理解し、BLSの手順が説明できる。						
3	脳神経外科疾患1		頭蓋内の主要な病態の概略を理解する。 脳腫瘍、脳血管障害の概略と主な病態を説明できる。						
4	脳神経外科疾患2		頭蓋内の主要な病態の概略を理解する。 脳腫瘍、脳血管障害の概略と主な病態を説明できる。						
5	脳神経外科疾患3		頭蓋内の主要な病態の概略を理解する。 脳腫瘍、脳血管障害の概略と主な病態を説明できる。						
6	甲状腺・頸部疾患		甲状腺疾患の診察、診断法を理解する。 主な甲状腺疾患を挙げ概要が説明できる。						
7	胸壁・呼吸器疾患		胸部疾患の主要な症候を知り主要な疾患との関連を理解する。 胸部疾患の主要な検査、手術法の概略を説明できる。						
8	確認テスト		復習を行い、知識を定着させる						
9	乳腺疾患		乳腺疾患の概略を理解し、診察、診断法の概略が説明できる。 乳房腫瘍の概要が説明できる。						
10	心臓・脈管疾患(1)		心・血管系疾患の検査法を知る。心臓疾患での主な手術法の概略を説明できる。						
11	心臓・脈管疾患(2)		主な心臓疾患を挙げ概要を説明できる。						
12	腹部外科疾患(1)		腹部外科疾患の主な症状を挙げ疾患との関連が説明できる。						
13	腹部外科疾患(2)		腹部疾患に対する主な検査の概略が説明できる。						
14	腹部外科疾患(3)		腹部で行われる主要な手術の概略が説明できる。						
15	期末テスト 解説		テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

## 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		学年	開講区分	後期	担当教員	
柔道整復師科午後コース		2			吉岡 博英先生	
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)
リハビリテーション医学						30(2)
						授業回数 15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) リハビリテーション医学の総論部分及び、リハビリテーションの基礎医学、評価と診断を教授する。						
〔到達目標〕 リハビリテーション医学の総論部分を学ぶ。リハビリテーションの基礎医学、評価と診断を理解する。リハビリテーション医学の各種療法について学習し、理解する。						
〔使用教材、参考文献等〕 リハビリテーション医学(改訂第4版)				〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。		
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)				
1	リハビリテーションの治療(言語治療)	言語障害の分類を示し概要が説明できる。言語療法の概要が説明できる。				
2	リハビリテーション医学と関連職種	リハビリテーション医の役割の概要が説明できる。医療職種の資格・役割の概要が説明できる。				
3	リハビリテーションの実際(脳卒中)	脳卒中の分類と特徴の概要が説明できる。脳卒中にみられる障害を挙げ概要が説明できる。				
4	リハビリテーションの実際(脊髄損傷)	脊髄損傷の病態・損傷部位と機能予後の関係を概略的に説明できる。脊髄損傷リハビリテーションを回復期別に概要が説明できる。				
5	リハビリテーションの実際(小児疾患)	脳性麻痺の特徴と診断について概略が説明できる。二分脊椎、筋ジストロフィーとそのリハビリテーションの概要が説明できる。				
6	リハビリテーションの実際(切断)	切断の原因・切断部位の名称を挙げ説明できる。切断のリハビリテーションの概要が示せる。				
7	リハビリテーションの実際(末梢神経損傷)	末梢神経損傷の分類・重症度分類の概要が説明できる。末梢神経損傷のリハビリテーション概要が示せる。				
8	確認テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	リハビリテーションの実際(関節リウマチ)	関節リウマチの概略が説明できる。関節リウマチのリハビリテーションの概要が示せる。				
10	リハビリテーションの実際(整形外科疾患)	腰痛の原因疾患を挙げ、腰痛の発生機序を説明できる。腰痛腰痛のリハビリテーションの概要が示せる。				
11	リハビリテーションの実際(心疾患)	心疾患とリハビリテーションの概要が説明できる。				
12	リハビリテーションの実際(呼吸器疾患)	呼吸器疾患とリハビリテーションの概要が説明できる。				
13	リハビリテーションの実際(老人のリハビリテーション)	老人のリハビリテーションの特殊性が説明できる。				
14	リハビリテーションと福祉	リハビリテーション関連法規の概要が説明できる。				
15	期末テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(40点)と期末試験(60点)の合計100点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。		

## 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		学年	2	開講区分	後期	担当教員	
授業科目名						瑞泉 誠先生	
臨床柔道整復学 I		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2) 授業回数 15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>柔道整復師の資格を持ち、接骨院の臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、柔道整復術の骨折・脱臼・軟部組織損傷の知識および治療法を、人体構造の基礎である筋骨格系をベースに授業を行なう。作図と3D映像を交え、立体的に把握できるような空間認識能力を培い、実際の人体内部を理解できる授業とする。臨床での経験を活かし、実際の治療法に関する内容まで到達することを目標とする。</p>							
〔到達目標〕							
手関節から手指の骨折・脱臼・軟部組織損傷の基本的知識を説明できるようになる。							
〔使用教材、参考文献等〕				〔準備学習・時間外学習〕			
柔道整復学 理論編 改訂第6版(南江堂)							
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)					
1	手関節部の軟部組織損傷1	三角線維軟骨複合体損傷、ド・ケルバン病について理解する。					
2	手関節部の軟部組織損傷2	末梢神経障害、キーンベック、マーデルング変形について理解する。					
3	手・指部の機能解剖	機能解剖について理解する。					
4	中手骨部の骨折1	骨頭部、頸部、骨幹部の骨折について理解する。					
5	中手骨部の骨折2	第1、第5中手骨基部骨折について理解する。					
6	手根中手関節脱臼	手根中手関節脱臼について理解する。					
7	指骨の骨折1	基節骨骨折、中節骨骨折について理解する。					
8	確認テスト	今までの確認試験を実施する。					
9	指骨の脱臼1	指骨の脱臼について理解する。					
10	指骨の脱臼2	指骨のそれ以外の損傷について理解する。					
11	手部、指部の軟部組織損傷1	靭帯損傷について理解する。					
12	手部、指部の軟部組織損傷2	靭帯損傷について理解する。					
13	手部、指部の軟部組織損傷3	ロッキングフィンガー、ばね指について理解する。					
14	手部、指部の軟部組織損傷4	変性疾患、変形について理解する。					
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕				〔特記事項〕			
評価は筆記試験で行う。試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。							

# 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

<b>学科・コース</b> 柔道整復師科午後コース	<b>学年</b>	2	<b>開講区分</b>	後期	<b>担当教員</b> 黒澤 紀雄先生	
<b>授業科目名</b>	<b>必修/選択</b>	必修	<b>授業形態</b>	講義	<b>時間数(単位)</b>	30 (2)
臨床柔道整復学Ⅱ					<b>授業回数</b>	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)                  接骨院にて怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、柔道整復師として必要な軟部組織損傷についての知識を教授する。                  解剖学的な構造を理解したうえで発生機序を理解する。ただ単に症状や治療法を暗記するのではなく、なぜそのような症状がでるのか、なぜそのように治療するのかを解剖学や運動学といった学問を基に論理的に考えさせ、臨床の現場でも対応できるような知識の習得を目指した授業とする</p>						
<p>〔到達目標〕                  下腿から足趾の骨折・脱臼の基本的知識を説明できるようになる。</p>						
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学 理論編 改訂第6版(南江堂) 柔道整復学 実技編 改訂第2版(南江堂)			〔準備学習・時間外学習〕			
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)			
1	下腿部の機能解剖		下腿部の機能解剖について理解する。			
2	下腿骨幹部骨折1		下腿骨幹部骨折の発生機序・症状について理解する。			
3	下腿骨幹部骨折2		下腿骨幹部骨折の転位、後遺症について理解する。			
4	足関節の機能解剖		機能解剖について理解する。			
5	下腿遠位部の骨折1		下腿遠位部の骨折について理解する。			
6	下腿遠位部の骨折2 確認テスト		下腿遠位部の脱臼について理解する。			
7	足根骨骨折1		距骨骨折について理解する。			
8	足根骨骨折2		踵骨骨折について理解する。			
9	足関節部の脱臼 確認テスト		足関節部の脱臼について理解する。			
10	足趾部の機能解剖、足根骨骨折		機能解剖と足根骨骨折について理解する。			
11	中足骨骨折、趾骨骨折		中足骨、趾骨骨折について理解する。			
12	足根部の脱臼と軟部組織損傷		ショパール関節損傷、リスフラン関節損傷、扁平足について理解する。			
13	足・趾部の脱臼1		足・趾部の脱臼について理解する。			
14	足・趾部の脱臼2		足・趾部の脱臼について理解する。			
15	期末テスト 解説		テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。			
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト40点、期末試験60点の合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕			

## 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		学年	2	開講区分	後期	担当教員	
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	集中講座	
臨床柔道整復学Ⅲ						時間数(単位)	30(2) 授業回数 15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、柔道整復師として必要な骨盤から下肢の骨折についての知識を教授する。解剖学的な構造を理解したうえで発生機序を理解する。ただ単に症状や治療法を暗記するのではなく、なぜそのような症状ができるのか、なぜそのように治療するのかを解剖学や運動学といった学問を基に論理的に考えさせ、臨床の現場でも対応できるような知識の習得を目指した授業とする。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>下肢の軟部組織損傷の基本的知識を説明できるようになる。また、それに応じたテーピングをできるようにする。</p>							
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学 理論編 改訂第6版(南江堂)				〔準備学習・時間外学習〕			
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)					
1	大腿部の軟部組織損傷1	打撲について理解する。					
2	大腿部の軟部組織損傷2	肉離れについて理解する。					
3	テーピング(大腿部)	打撲・肉離れのテーピングを行う。					
4	下腿軟部組織損傷1	アキレス腱炎、下腿肉離れについて理解する。					
5	下腿軟部組織損傷2	下腿部のスポーツ障害について理解する。					
6	下腿軟部組織損傷3	注意すべき疾患について理解する。					
7	テーピング(下腿部)	下腿部のテーピングを行う。					
8	足関節部の軟部組織損傷1	足関節捻挫について理解する。					
9	足関節部の軟部組織損傷2	鑑別診断について理解する。					
10	テーピング(足関節1)	足関節のテーピングを行う。					
11	テーピング(足関節2)	足関節の応用テーピングを行う。					
12	足・趾部の軟部組織損傷1	有痛性疾患について理解する。					
13	足・趾部の軟部組織損傷2	前足部の有痛性疾患について理解する。					
14	テーピング(足・趾部)	足・趾部のテーピングを行う。					
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は単位認定試験100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕			

# 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

<b>学科・コース</b> 柔道整復師科 午後コース	<b>学年</b>	2	<b>開講区分</b>	後期	<b>担当教員</b> 清武 裕之先生	
<b>授業科目名</b>  柔道整復実技Ⅲ	<b>必修/選択</b>	必修	<b>授業形態</b>	実技	<b>時間数(単位)</b>	30 (1)
					<b>授業回数</b>	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、各代表的な骨折・脱臼・軟部組織損傷の基礎知識と整復・固定の技術を指導する。骨折・脱臼の整復・固定は柔道整復師として絶対的に必要な技術であり、他業種に負けない独自の技術である。そのため、自主練習に励み、1年間のうちにその基礎を培って欲しい。</p>						
<p>〔到達目標〕</p> <p>柔道整復師として必要な上肢の骨折・脱臼に対する整復法と固定法を習得することを目標とする。 3年次に行われる認定実技審査の内容を細かく学び、技術の習得をする。</p>						
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学 実技編 柔道整復学 理論編 包帯固定学			〔準備学習・時間外学習〕			
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)			
1	下腿骨骨幹部骨折の固定法①		適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる			
2	下腿骨骨幹部骨折の固定法②		適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる			
3	下腿骨骨幹部骨折の固定法③		適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる			
4	アキレス腱断裂の固定法		適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる			
5	第5中手骨頸部骨折の固定法①		適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる			
6	第5中手骨頸部骨折の固定法②		適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる			
7	手第2指PIP関節背側脱臼の固定法①		適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる			
8	手第2指PIP関節背側脱臼の固定法②		適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる			
9	足関節外側靭帯損傷の固定法①		適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる			
10	足関節外側靭帯損傷の固定法②		適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる			
11	足関節外側靭帯損傷の固定法③		適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる			
12	復習①		これまでの学習の振り返りを行うことで、より確実な知識・技術を習得する。			
13	復習② 確認テスト		これまでの学習の振り返りを行うことで、より確実な知識・技術を習得する。			
14	期末テスト①		テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める			
15	期末テスト②		テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める			
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 試験は確認テスト(20点)と期末テスト(80点)の合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい手法があれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。			

## 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		学年	開講区分	後期	担当教員	
柔道整復師科午後コース		2			集中講座	
授業科目名		必修/選択	授業形態	実技	時間数(単位)	授業回数
高齢者・競技者の外傷予防		必修			30(2)	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、柔道整復師として必要な骨盤から下肢の骨折についての知識を教授する。解剖学的な構造を理解したうえで発生機序を理解する。ただ単に症状や治療法を暗記するのではなく、なぜそのような症状ができるのか、なぜそのように治療するのかを解剖学や運動学といった学問を基に論理的に考えさせ、臨床の現場でも対応できるような知識の習得を目指した授業とする。</p>						
<p>〔到達目標〕</p> <p>代表的なスポーツ種目と特徴的な外傷・障害を理解し説明ができる。機能訓練指導員の役割を説明できる。外傷予防の評価法及び運動法を修得する。</p>						
〔使用教材、参考文献等〕				〔準備学習・時間外学習〕		
柔道整復師と機能訓練指導 南江堂 運動学 柔道整復学・理論編 南江堂 競技者の外傷予防 医歯薬出版株式会社						
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)				
1	認知症の理解・認知症のある利用者の支援(P119)	認知症について理解する。				
2	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドロームについて理解する。				
3	機能訓練指導員と機能訓練	機能訓練指導員の概要について理解する。				
4	確認試験	知識の確認を行う				
5	機能訓練で提供する運動と要点1	手順について理解する。				
6	機能訓練で提供する運動と要点2	器具を用いない体操について理解する。				
7	機能訓練で提供する運動と要点3	器具を用いないトレーニングについて理解する。				
8	機能訓練で提供する運動と要点4	器具を用いない体操とトレーニングを実践する。				
9	機能訓練で提供する運動と要点5	簡単な器具を用いて行う運動について理解する。				
10	機能訓練で提供する運動と要点6	簡単な器具を用いて行う運動について実践する。				
11	機能訓練で提供する運動と要点7	高齢者の運動時のリスク管理について理解する。				
12	機能訓練で提供する運動と要点8	股関節の運動能力を高める運動と各部位の運動について理解する。				
13	機能訓練で提供する運動と要点9	股関節の運動能力を高める運動と各部位の運動について実践する。				
14	機能訓練で提供する運動と要点10	個別の運動メニューを作成し、指導をする。				
15	単位認定試験	テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕				〔特記事項〕		
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は単位認定試験100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						



## 2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース		学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	集中講座			
高齢者・競技者の外傷予防						時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)          臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、柔道整復師として必要な骨盤から下肢の骨折についての知識を教授する。解剖学的な構造を理解したうえで発生機序を理解する。ただ単に症状や治療法を暗記するのではなく、なぜそのような症状がでるのか、なぜそのように治療するのかを解剖学や運動学といった学問を基に論理的に考えさせ、臨床の現場でも対応できるような知識の習得を目指した授業とする。</p>									
<p>[到達目標]          代表的なスポーツ種目と特徴的な外傷・障害を理解し説明ができる。機能訓練指導員の役割を説明できる。外傷予防の評価法及び運動法を修得する。</p>									
[使用教材、参考文献等] 柔道整復師と機能訓練指導 南江堂 運動学 柔道整復学・理論編 南江堂 競技者の外傷予防 医歯薬出版株式会社					[準備学習・時間外学習]				
回	[授業概要]				到達目標(できるようになること)				
1	運動生理学の概要				運動生理学の概要について理解する。				
2	競技者の外傷予防				外傷予防について理解する。				
3	復習				復習				
4	復習				復習				
5	確認試験・スポーツマッサージ・ストレッチ				知識の確認を行う。スポーツマッサージ・ストレッチを实践する。				
6	外傷予防のための実践1				基礎的なトレーニングの实践を行う。				
7	外傷予防のための実践2				柔道における外傷予防を实践する。				
8	外傷予防のための実践3				柔道における外傷予防を指導する。				
9	外傷予防のための実践5				水泳における外傷予防を实践する。				
10	外傷予防のための実践6				水泳における外傷予防を指導する。				
11	外傷予防のための実践7				バスケットボールにおける外傷予防を实践する。				
12	外傷予防のための実践8				バスケットボールにおける外傷予防を指導する。				
13	外傷予防のための実践9				サッカーにおける外傷予防を实践する。				
14	外傷予防のための実践10				サッカーにおける外傷予防を指導する。				
15	単位認定試験				テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。				
[評価について] 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は単位認定試験100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					[特記事項]				